

2017年3月期 第1四半期 決算の概要

2016年8月2日

日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

システムサービス、アウトソーシング中心に堅調に推移し、増収増益

(単位：億円)

	第1四半期 (4-6月)		前年同期比 増減	
	2017/3期	2016/3期		
売上高	561	524	+37	+7.0%
売上総利益	136	126	+11	+8.7%
販管費	▲124	▲118	▲6	▲5.0%
営業利益	12	7	+5	+68.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	9	+0	+5.8%
受注高	620	524	+96	+18.3%
受注残高	2,175	2,102	+73	+3.5%

<1Q決算のポイント>

- 売上高
システムサービス、アウトソーシングが伸長。製品販売も増収。
- 営業利益
増収および利益率改善等により増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
投資有価証券売却益の減少等により微増にとどまる。
- 受注高・受注残高
アウトソーシングを中心に受注高、受注残高ともに増加。

【ご参考】 1Q (4-6月) の売上高、営業利益、純利益の5カ年推移 (単位：億円)



UNISYS

これより、2017年3月期第1四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。
資料の1ページをご覧ください。

第1四半期の業績は、売上高は前年同期比+37億円増加の561億円、営業利益は前年同期比+5億円増益の12億円、四半期純利益は前年同期比微増の9億円となりました。

売上高は、システムサービス、アウトソーシングが伸長したことに加え、製品販売においても増収となりました。利益面では、増収効果に加え、利益率の改善等もあり、売上総利益が前年同期比で11億円の増益。販管費は年金費用・外形標準課税の税率改正による負担増もあり、6億円増加となりましたが、営業利益・純利益は増益となりました。

次に受注高については、アウトソーシングを中心に増加し、前年同期比+96億円増加の620億円となりました。受注残高につきましても、受注高の増加にともない、前年同期比+73億円増加の2,175億円となっております。

また、下段にご参考といたしまして第1四半期3カ月間の業績を5カ年推移で掲載しております。当第1四半期も、前年同期同様に増収増益となっております。

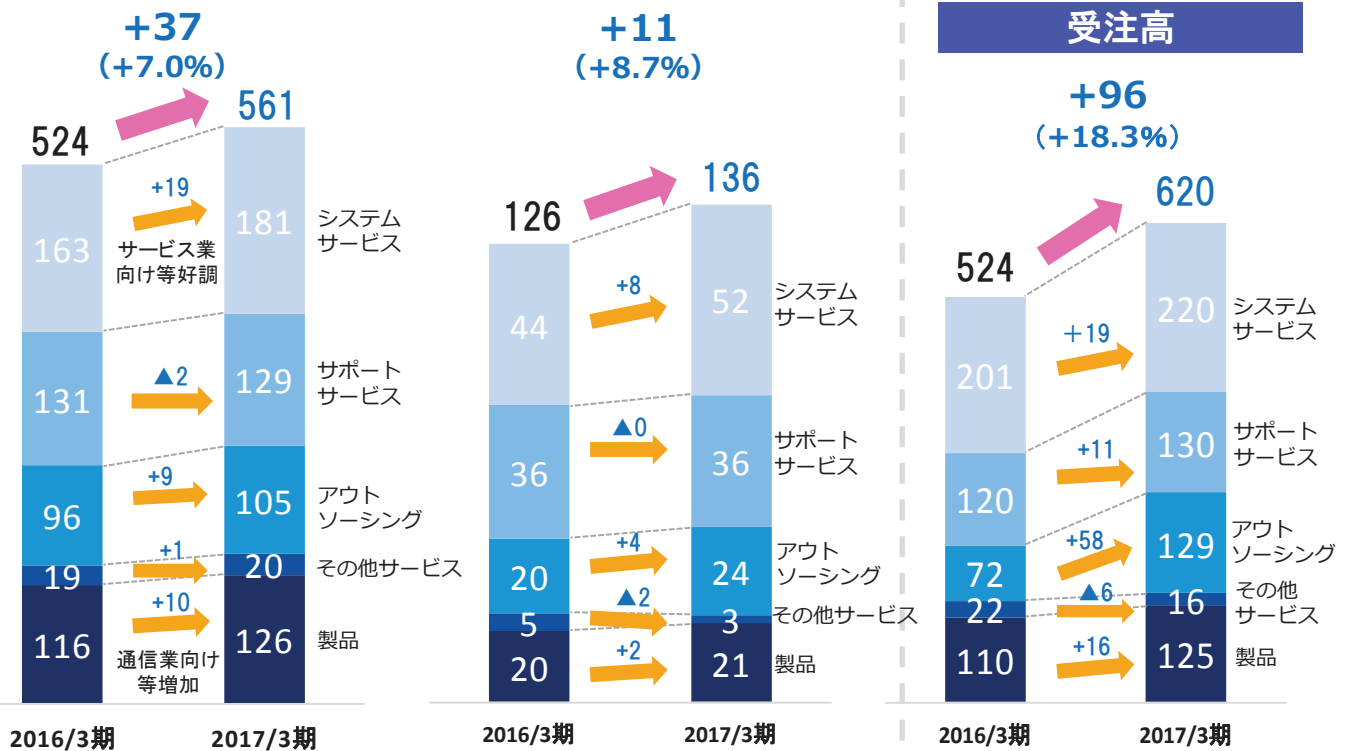
(単位：億円)

売上高

売上総利益

【ご参考】

受注高



続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。資料の2ページをご覧ください。

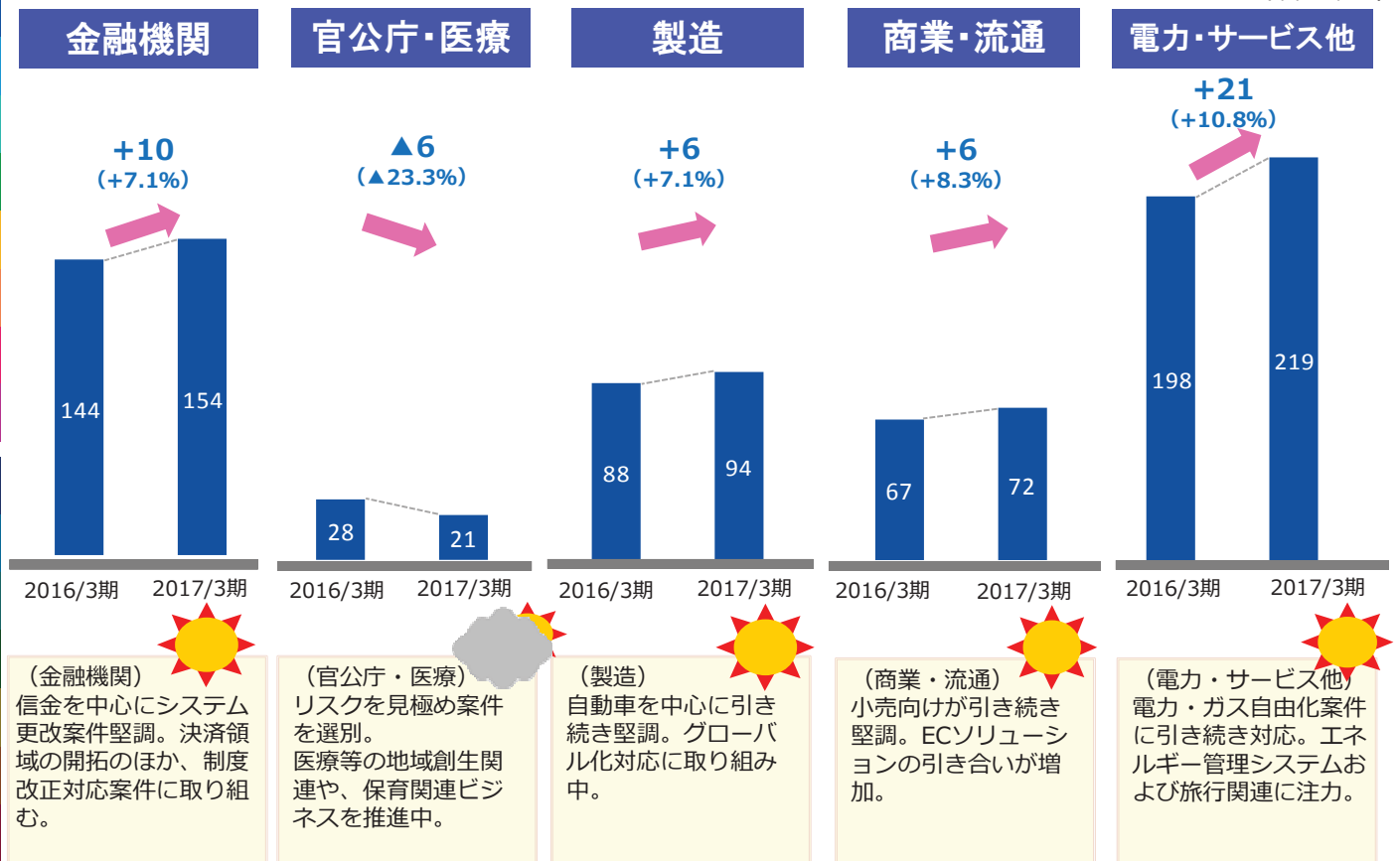
サポート以外の主要セグメントにつきましては、増収増益となっております。

システムサービスは、エアライン向けの案件等があったほか、中小型案件の積み上げにより増収・増益となっております。なお、第1四半期に不採算案件の発生はございません。

アウトソーシングは、バリューカード商内等が堅調に推移し、増収・増益となっております。

製品関係は、当四半期においては通信キャリア向けが引き続き好調だったことに加え、小売業・製造業向けの中小型案件が積み上がり、前年同期比で増収・増益となっております。

(単位：億円)



続きまして、マーケット別の状況を説明いたします。

資料の3ページをご覧ください。

前期に引き続き、金融および電力・サービス他を中心に売上が拡大しております。

金融は、信金を中心にシステム更改案件が引き続き堅調であることに加え、決済分野での新たなビジネスや、制度改正対応にも取り組んでおります。

官公庁につきましては、リスクを見極め案件を推進しておりますが、医療等の地域創生関連や、保育分野での新たなビジネスに取り組んでおります。

製造につきましては、円高進行による投資抑制の懸念はあるものの、自動車向けを中心に引き続き堅調です。

商業・流通は、小売向けが引き続き堅調でございます。

電力・サービス他では、当四半期はエアライン向けおよび通信キャリア向けが堅調となりました。引き続き、電力・ガス自由化案件に対応するとともに、エネルギー管理システムや、訪日旅行者向けサービス案件等に注力してまいります。

上期の売上高、営業利益、当期純利益の予想は
公表値（5月10日）から変更なし

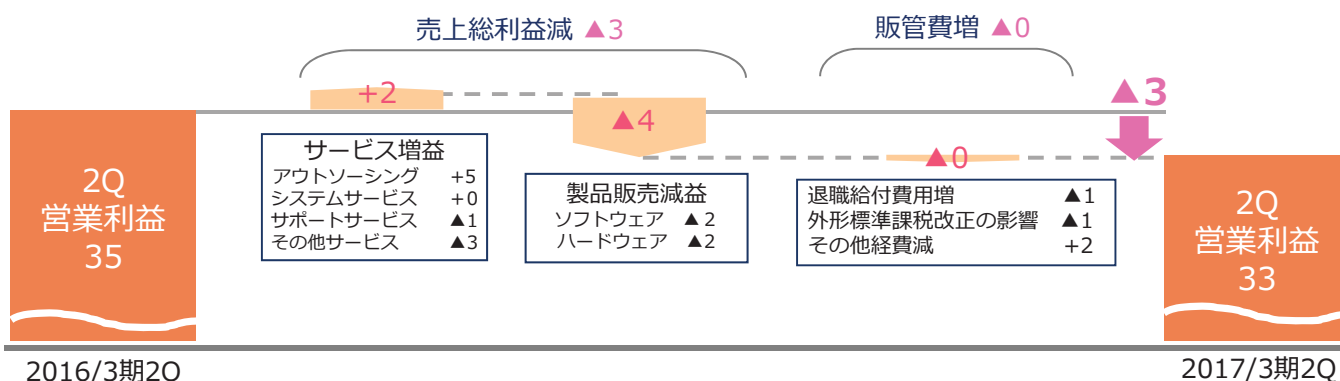
(単位：億円)

	2017年3月期 1Q実績		2017年3月期 2Q予想		2017年3月期 上期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	561	+37	739	▲20	1,300	+17
営業利益	12	+5	33	▲3	45	+2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	+0	23	+7	32	+7

* 上期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

(単位：億円、増減は前期比)

【2Q(7-9月) 営業利益の増減分解】



業績予想についてご説明いたします。

資料の4ページをご覧ください。

上期予想の売上高1,300億円、営業利益45億円、当期純利益32億円ということで、5月10日の公表値から変更ございません。

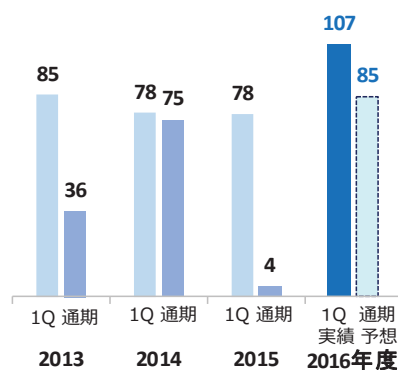
第2四半期については、前年同期に製品販売において中型案件が複数あった影響なども考慮し、減収の見通しとしておりますが、製品販売の減収に伴う減益分を、アウトソーシングの増収効果や採算性改善でカバーし、収益面ではほぼ前年同期並みを計画しております。

なお、特段の懸念案件がないことから、第2四半期においては不採算リスクを見込んでおりません。

▼ 今年度1Q実績 ▼ 前年度1Q実績

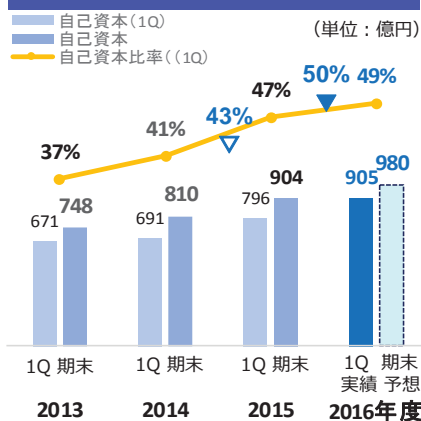
フリー・キャッシュ・フロー

(単位：億円)

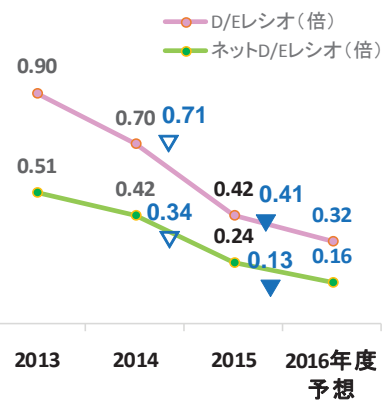


自己資本

(単位：億円)



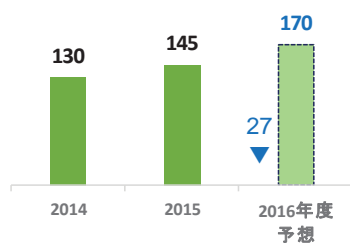
D/Eレシオ



売上高

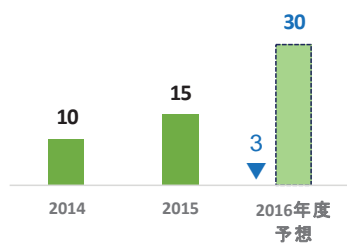
デジタルイノベーション

(単位：億円)



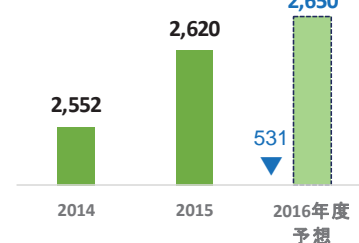
ライフイノベーション

(単位：億円)



ビジネスICTプラットフォーム

(単位：億円)



5ページをご覧ください。

ご参考までに財務面では、

フリーキャッシュフローは107億円のポジティブ、自己資本比率は50%、

ネットD/Eレシオは0.13倍となっており、財務体質も引き続き着実に改善しております。

以上をもちまして、2017年3月期第1四半期 決算概要の説明を終了いたします。

Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。